

第6回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和3年11月30日（火） 午後3時から午後4時55分
- 2 開催場所 胎内市産業文化会館2階 会議室
- 3 議 題
 - (1) 教育長の報告
 - ・胎内市の学校間の交流の取組について
 - (2) 前回質問事項の報告
 - ・胎内市立中学校の生徒の自己有用感に関する現状について
 - (3) 中学校「4校統合した場合及び小規模校3校統合した場合」について
 - (4) 【グループ協議】
 - ・中学校「4校統合した場合及び小規模校3校統合した場合」について
- 4 公開・非公開の区分 公開
- 5 出席委員

委員長	桐生	和文
副委員長	小野	正敏(2グループ)
委員	橋本	定男
委員	宮菌	衛
委員	須貝	欽也(3グループ)
委員	河内	理助(1グループ)
委員	小林	勲(2グループ)
委員	渡邊	俊一(3グループ)
委員	久世	俊介(1グループ)
委員	近	真由美(3グループ)
委員	渡邊	英実(1グループ)
委員	花野	真也(1グループ)
委員	野尻	宰子(2グループ)
委員	丹後	直子(2グループ進行)

教育長	中澤	毅
学校教育課長	佐久間	伸一

管理指導主事 松原 利弘(1グループ進行)
指導主事 山沢 正仁(3グループ進行)
庶務係長 須貝 彰
庶務係主任 川崎 大介

- 6 会議資料 資料1 胎内市児童生徒の自己有用感
(令和3年度全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙より)
資料2 中学校「4校を統合した場合及び小規模校3校を統合した場合」

7 傍聴人の数 0人

8 会議の概要(要旨)

(1) 開 会

○ 議 長

本日はご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。出席者は委員の過半数を超えておりますので、本日の「第6回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会」は成立しますので始めさせていただきます。

なお、本日は、花野純恵委員、岡松委員、中村委員、佐藤委員の4名が欠席であります。

それではお手元の次第に沿って進めます。

次第の2「胎内市の学校間交流の取組について」教育長から報告をお願いします。

(2) 教育長の報告

○ 教育長

皆さんこんにちは。

私からこれまで当検討委員会においてもたびたび話題になっております、胎内市における学校間の交流の取組について、報告させていただきます。

このコロナ禍で具体的な取組に踏み切れない状況でありましたが、今回各学校にも理解を得て本格的に動き出したいと考え、10月の校長会でその了解を得るための説明をさせていただきました。

当検討委員会の答申にも関わることだと思いますので、委員の皆様にもぜひ知っておいていただきたいということでお話しさせていただきますのでよろし

くお願いします。

ご存じのように、学校の小規模化、少人数化により本来集団の中で培われる力が十分身に付かないのではないかという課題は、胎内市だけではなく全国的に存在しています。

しかし、このような学校の小規模化、少人数化の中においても、より多くの子どもたち同士で、互いに切磋琢磨し高め合うことを通して、向上心や豊かな社会性、他との違いを認め合う多様性などを胎内市の全ての子どもたちにしっかりと身に付けてほしいと願うのは、学校はもちろんのこと、保護者、地域住民も同様です。そして、その課題解決の一つの方策として、胎内市では学校間交流の取組について、現在実施している「小中学校の適正規模等検討委員会」の答申、それを踏まえた胎内市の小中学校の在り方の基本方針などを待たずに、部活動の見直しとともに、先行して進めていきたいということは、一昨年度のコミュニティ・スクールの学校運営協議会と各中学校区の小中学校関係者、保護者、地域住民の方々を対象とした説明会で教育委員会の方から既にお話しさせていただいているところであります。

小規模、少人数の学校・学級の児童生徒においては、他校の同学年の児童生徒との学習や行事等の交流を通して、相手や相手の学校・地域のよさや魅力を知るだけではなく、自分や自分の学校・地域のよさや魅力を発信することで、「そのよさをさらに磨いていこう」、「そのよさをもっと多くの人に発信していきたい」という意欲が高まり、これまで以上に向上心や社会性、地域を愛する心が育成されるものと考えます。また、比較的規模の大きな学校の児童生徒においても、交流により他校の様々なよさや魅力、また異なった人の考えなどの多様性に触れ、認め合い、高め合って育っていくことが期待されます。さらに交流活動を重ねることにより、同じ胎内市の小学生、中学生という意識が醸成され、学区だけではなく胎内市全体をふるさととして、「ふるさとを誇りに思う人間の育成」につながるものと考えています。胎内市の規模がこのような学校間の交流を推進するのに、適している規模であるということも大きな強みであると思います。

しかし、コロナ禍の中、校内の子ども同士のソーシャルディスタンスに十分な配慮が必要な状況で、他校の子どもとの交流を進めることは中々難しく、これまで本格的なスタートには至っていませんでした。

ところが、今回児童生徒全員が1人1台のタブレット端末を利用できるという状況となりましたので、それを好機として、ICTを活用した学校間の交流から始めさせていただければ幸いであると考えています。

具体的な学校間交流として想定されるのが、既に10月14日に実施させていただき、新潟日報にも掲載されましたし、市報の11月1日号の表紙にも紹介されましたが、中学生に高校生も加わった「1年生の職ナビゲーション」です。市内の中

学1年生全員が一堂に集い、市内の多くの事業所・団体の専門家の皆さんから直接キャリア教育を学べる大変素晴らしい取組であり、事後には各校毎に生徒間で自分の体験したことについて紹介し合い、それぞれの感想等を出し合って学びを深めていることと思いますが、その学びを他校の多くの生徒間で交流することによってその学びがより広まり更に深めることができるのではないかと考えています。また、各中学校のリーダーである生徒会役員のそれぞれの学校の特色ある取組紹介や意見交換などの交流も、各校の生徒会活動のよき刺激となるのではないかと考えています。

このように、決して真新しい取組ではなく、各校の既存の有意気な教育活動等を校内だけにとどめずに、胎内市のより多くの子どもたちが交流を通して享受し合い、これまで以上の学びと成長を促していきたいと考えています。

しかし、この取組は学校そして教職員に大きな負担をかけるのではないかと思われることから、市教育委員会が学校間の調整や準備、運営など必要な業務の多くを担当してもらいながら、各校との十分な意思の疎通を図り、できることから進めさせていただければ有難いと思います。ついては、「学校間等の交流に関する」業務を担当する学校教育課の指導主事が今後各学校と連絡を取らせていただきながら、特に小規模化・少人数化の課題が比較的大きい中学校を中心に、この学校間の交流を進めていきたいと考えています。また、各校のコミュニティ・スクールとの連携も大切であると思いますので、後日、指導主事が各校の学校運営協議会開催時に、この学校間の交流について説明に伺いますことをご了承くださいと付け加えさせていただきました。

学校の規模にかかわらず、胎内市の全ての子どもたちの生きる力を支える豊かな社会性や多様性などを、これまで以上に培っていききたいとの願いの下、胎内市のより多くの子どもたちの交流を通して、ふるさと胎内市を誇りに思う子どもたちを育てていけるようご理解とご協力をよろしくお願い申し上げますということを校長会で伝えさせていただきました。校長先生方からはご理解いただきまして、この後早速さきほど申しあげました「1年生の職ナビゲーション」を終えて学校間の交流を進めてくれているところもございます。この輪をさらに広げていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

以上、ご理解いただきたいと思えます。

○ 議 長

ありがとうございました。ただいま教育長から交流活動について説明がありましたが、この教育長の報告についてご質問がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

<質問なし>

○ 議 長

この交流活動については、今まで協議してきた中で、その有意義、その有効性、大切さは認めるものの、しかし大変だという、これは教職員アンケートにもありますし、私たちが今まで検討してきた中でも、そのような意見が出ていたわけですが、この形で胎内市は進んでいきますということです。

質問が無いようですので、次に前回の質問事項等について報告します。事務局から報告をお願いします。

(3) 前回質問事項の報告 ・胎内市立中学校の生徒の自己有用感に関する現状について

○ 指導主事

2点説明をさせていただきます。

まず、胎内市立小中学校の生徒の自己有用感に関する現状についての回答です。資料1「胎内市児童生徒の自己有用感」をご覧ください。これは令和3年度に実施した全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙から自己有用感の分かる、それに近い項目を5つピックアップしたものです。

1つ目、「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対して、胎内市中学3年生の肯定的回答78.3%という結果が出ています。県よりも若干、0.3%低く、全国よりもおよそ2%高い、ほぼ全国、県と同じ程度ということになります。ただ胎内市には特徴がありまして、「当てはまる」と明確に答える子の割合が少ないですが、「どちらかといえば当てはまる」と答える子の割合が多いと捉えています。

2つ目、「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対しては、胎内市中学校3年生の肯定的回答は75.1%でした。これは県、全国の平均と比べて高いものとなっています。

裏面に進みます。「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」という設問に対しては、胎内市中学校3年生の肯定的回答は87.9%です。これも県、全国を上回るというところですが、県平均とは、ほぼ同等となっています。

次に、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」という設問に対しては、胎内市中学3年生の肯定的回答は69.9%です。これは県平均よりも低く、全国平均よりも高いという結果になっています。

最後に「人が困っているときは、進んで助けていますか」という設問に対して、胎内市中学3年生の肯定的回答は92.6%となっています。これについては県、全

国よりも高い数値となっています。

基本的に県や全国平均と比較すると著しく落ちているというところはありませんが、今後も自己有用感の向上を図って行くことは必要であると捉えております。

続いて、お手元の「胎内市のコミュニティ・スクール」の資料をご覧ください。

今ほど教育長からも胎内市のコミュニティ・スクールについて触れましたが、11月16日に新潟県コミュニティ・スクール研修会が開催されました。この研修会は胎内市と新潟県教育委員会の共催で、胎内市のコミュニティ・スクール取組発表をさせていただきました。参加者、講師の文部科学省コミュニティ・スクールマイスターという立場の方から非常に高い評価をいただきました。またこの検討委員会でも一度コミュニティ・スクールという話が出ていましたので、やはり委員の皆様にもコミュニティ・スクールの説明をさせていただければと思いついて資料の準備をさせていただきました。

胎内市のコミュニティ・スクールは令和2年度に全小中学校が開始しています。

胎内市のコミュニティ・スクールとはどのようなものかということになる訳ですが、「学校運営協議会」を設置した学校、これをコミュニティ・スクールといいます。ではその「学校運営協議会」とは何をやる場所かということですが、胎内市としては、学校や地域の課題を捉え、それを熟議し、実行する。そしてその成功体験を共有して次につなげるという一連の流れを行うのが「学校運営協議会」です。

どんな方が「学校運営協議会」のメンバーかについては、PTA関係者が一番多い割合を占めています。研修会の中でも、親世代が委員になっていることが非常に重要ということで高い評価を得ています。加えて地域や学校のことを熟知している皆さんに委員として集まっています。さきほども申しましたが、これによって地域の課題や子どもたちの課題を捉え、目指す子どもの姿を設定して、これを実現するために様々な活動を組んでいくというのが概略でございます。

中条小学校での熟議の様子の写真です。平成30年に行ったものですがこのような形で「目指す子どもの姿」を明確に示しています。各小中学校の「目指す子どもの姿」はその横にあるとおりです。

2枚目に移ります。「目指す子どもの姿」を捉えたら、これを達成するための活動はどのように在るべきかということを経験の皆様、学校、そして生徒や児童が参加して熟議、つまり熟慮と議論を重ねていくということが大切であります。

資料に示したのは黒川中学校での熟議です。「地域に飛び出し、繋がる」と

いうテーマで、このグループは生徒、PTA会長、地域コーディネーター、学校職員2名でした。この中で「私は、こんなことで地域の行事に参加しようと思います。」という生徒からの提案があります。これに基づいて準備が必要なもの、例えばこの教科の時間が使えるよとか、参加することによって地域や生徒自身にどのようないいことがあるのかというところをグループでお話しされ、最後は「これが地域を愛するということだ」というところで結論づけられたと聞いています。

生徒が参加しての熟議は、まだまだ全小中学校でという訳ではございませんが、このような形で地域と学校をつなぎ一体化して盛り上げていくといたしますか、生徒、地域、学校ともにウインウインの関係を目指して熟議を重ねているところです。ここで決められたものを実行するのが「地域学校協働活動」です。地域コーディネーターの皆様を中心に色々な方から力を貸していただいて「目指す子どもの姿」を具現化するための活動を行っています。築地小中学校合同の活動をここでは取り上げました。海岸清掃、あいさつ運動、いじめ見逃しゼロスクール集会を築地小中学校は合同で活動しています。

これらを踏まえて、児童生徒にどのような成長が見られるかですが、この適正規模等検討委員会で行いました中学3年生へのアンケート、この中の「あなたは地域と交流する活動を大切だと思いますか」という設問で肯定的回答の割合が高いこと、そしてその理由として「地域の人たちがいて学校が成り立っているから」等々の中学3年生の回答から、地域を愛し、ふるさとの活性化に力を入れようとする中学生の意識の強さが生れているのではないかと捉えています。

先ほど申しあげました11月の新潟県コミュニティ・スクール研修会胎内大会、参加者の声を最後拾ってみました。講師をされた相田康弘氏は「子どもたちの育ちや学びを支えること」「保護者や地域の皆様に笑顔と思い出を作ること」の2点がコミュニティ・スクールの良さだが、これについて胎内市の取組は素晴らしく、成果も上げている。関係者が本気になって取り組んでいることがよく分かったと評価していただいています。コミュニティ・スクールの活動を通して、中核的拠点的な役割を学校が果たす、学校を核とした地域づくりが進んできているのが胎内市の今の良さだと捉えています。説明は以上です。

○ 議長

前回の質問について準備していただきたいという自己有用感に関する数値、そしてコミュニティ・スクールの2点の説明がございました。これについてご質問がございましたらお願いします。いかがでしょうか。

<質問なし>

○ 議 長

コミュニティ・スクールについても今までの議論の中で大切にされてきた一つのキーワード、小中の連携のあたりにも結び付いて行くのかなと考えながら聞いておりました。

それではご質問がないようですので、次に中学校「4校統合した場合」及び「小規模校3校統合した場合」について、事務局から説明をお願いします。

(4) 中学校「4校統合した場合及び小規模校3校を統合した場合」について

○ 管理指導主事

本日のグループ協議のテーマであります中学校4校統合した場合、つまり胎内市立中学校は、中条中学校、乙中学校、築地中学校、黒川中学校の4校です。で全ての学校を統合した場合、及び小規模校3校、1学年1学級である乙中学校、築地中学校、黒川中学校は2クラスの学年もありますが、その3校を統合した場合の概要についてお話しします。

第1回目の検討委員会でお示しした内容とほぼ同様ですが、確認の意味で、もう一度お話しさせていただきます。まず左側「4つの中学校を1つの中学校にした場合」です。生徒数は約630人、学級数は一学年が6クラス、一学年の人数が約210名ということになります。その場合の教職員数は今現在中学校の先生方70人弱いますが、それが統合すると約40名ということになります。付け加えて説明しますと、1校になるということは、それぞれ4校にいた校長先生、教頭先生、養護教諭、事務職員が1人になるということになります。

メリットは、複数クラスになりますのでクラス間の「切磋琢磨の機会が増える」「部活動の部員が確保できる」と以前は説明していましたが、今生徒の志向性が増えて、ある程度の規模の学校であっても部活動の部員数が確保できないというような現状も見られています。メリットの3つ目は「学級替えができる」ということであります。

デメリットは4点で示してありますが、「教職員数が減少する」、教職員数が減ると大人の目が少なくなりますので「きめ細かな生徒への支援が難しくなることが心配される」、「通学距離が長くなる」、「地域から中学校がなくなる」ということであります。

右側、3校小規模校を一つの中学校にした場合、生徒数が約250人、一学年3クラスで、一学年80名から90名くらいになります。教職員の人数ですが、今まで3校合わせますと39名くらいです。統合後は20名前後になります。

メリットは先ほどお話しした4校統合とほぼ同じであります。デメリットも

同様であります。ここで私が説明したことは概要でありますので、まだまだこういうことが考えられるなど委員の皆さまのお考えがあるかと思っておりますので、これを参考にして、協議の中で具体、詳細をお話いただければと思います。以上です。

○ 議 長

ただいま説明のありました、中学校「4校を統合した場合」及び「小規模校3校を統合した場合」について、ご質問がございましたらお願いします。いかがでしょうか。

<質問なし>

○ 議 長

それでは質問がないようですので、次にグループ協議に入ります。

ここからは、前回に引き続き、想定される学校の在り方と実現に向けた方策について、より掘り下げて協議を進めてまいりたいと思います。

本日のテーマは、ただいま説明のありました、中学校「4校を統合した場合」及び「小規模校3校を統合した場合」です。委員の皆様全員からご意見を出し合い、意見交流をお願いしたいと思います。

なお小野副委員長にはグループに入ってくださいますが、学識経験者の橋本委員、宮園委員からは、最後にグループ協議を踏まえ、ご意見をいただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

また、グループ編成は前回同様、中条地区を除く3地区ごとの編成としています。

「交流活動」「通学」「部活動」「その他」の視点から、それぞれの地区の課題を含めた想いやお考えを積極的に出していただければと思います。

また、この中の「その他」ですが、今回は一応私たちが考えてきた「統合しない場合」「併設型小中一貫校とする場合」「統合する場合」の最後の議論になりますので、このことを踏まえて答申原案を来年お示しすることになると思います。ここでは「統合した場合」、中学校の設置場所はここがいいとかそういうことではなくて、こういう配慮が必要とか、あるいは統合する場合の地域住民、保護者への説明はしっかりとしていかなければならないなど、統合するとした場合の心配事なども「その他」の中に入れて考えていただければと思います。今後、どういう方向に進むとしても、今までの検討委員会を踏まえると、「地域とともに」、「学校愛」「地域愛」そのようなキーワードになるだろうということや、「統合しないとした場合」にも先を見据え、こんなことが配慮として必要だろうと付帯事

項として付けておきたいというような話など、そのようなことも話し合っただけならばと思いますのでよろしくお願いします。

各グループの進行役はあらかじめお願いしてありますので、よろしくお願いします。

時間が今3時35分、その後の発表もございますので目安として4時10分ということでお願いします。グループ協議終了後、第1グループから順に、それぞれ協議の内容を3分程度で発表いただきます。その後お二人の学識経験者の委員の方々からご意見をいただきます。

それではグループ協議をお願いします。

(5) 【グループ協議】

中学校「4校統合した場合及び小規模校3校を統合した場合」について

<3グループに分かれて「4校統合した場合及び小規模校3校を統合」
した場合のグループ協議>

<約40分>

○ 議長

それではグループ協議を打ち切らせていただきますので、よろしくお願いします。

これからそれぞれのグループの協議内容の発表をお願いします。

発表時間は大体3分でお願いします。

それでは最初に1グループから発表をお願いいたします。

○ 管理指導主事

それでは1グループです。1グループも様々な視点からお話しいただきました。まず「通学」という話が出る前に立地場所はどうするかという話になりました。3つの学校の間がいいとか、いや端に造って一斉にそこに集まるという考えや、今ある学校をベースにという考えも出たのですが、基本的にはバス通学になるだろうと。熊も出るしサルも出るし、不審者も出るかもしれないので、バスに乗れば安心だと。ただ乗っている時間は遠い所で40分以上と考えると、朝は早いし夜は遅いし部活動はどうなるのか。部活動をするのであれば送り迎えが必要ではないか。帰りが遅ければ家庭学習の時間が確保できないだろうなど、通学時間というのはリスクという話になりました。

「部活動」については、職員数が減るのだから部活数だって必然的に減ってくるでしょうという話が出ました。それに今、地域移行に進んでいますが、これもなかなか難しい問題ということでまとまらないので空欄になっています。今までも合同の部活動ができるのではないかとか、中体連の様々な制約がある中でも可能なのではないかとということです。

次に「その他」で出てきたのは、統合すると地域とのつながりが弱くなるだろうと。地域の方は地元愛が強く、統合すると、つながり、応援が得にくいと。ただ4校統合になっても時間が経てばそういうことは無くなって行くだろうと、時間が解決してくれるのではないだろうかということです。ですがやはり統合した当初は新しい取組にはケアが必要ということでもあります。

それから地元には学校があれば、おじいちゃん、おばあちゃんだって行事に喜んで行っているが、統合して大きくなったらどうかという心配がありました。

次に「交流活動」については、大きくなれば学校等行事も盛り上がるだろうという話が出ました。そうであれば3校統合よりも4校統合の方がその時は盛り上がるということでもあります。ただ今のままでも合同体育祭とか、ICTを活用した同じグループ学習とか、総合的な学習の充実でクリアできるのではないかと。ここでまとまるのですが、オール胎内も大事ですが「おらが町も大切」という考え方がやはりいいのではないかとということです。

最後に、職員数が少なくなるから、ケアが必要な生徒にどれだけ寄り添えるか、そこをしっかりとしていかなければいけないということと、そうなった時は先生も保護者も地域の方も生徒に寄り添って行く必要があるのではないかと話になりました。すべてを語り尽くせませんが、大体こういう話で収まりました。以上です。

○ 議長

ありがとうございました。続いて第2グループよろしくをお願いします。

○ 丹後委員（2グループ進行役）

第2グループです。4校統合ということで、メリット、デメリットなどを中心に協議を進めていきましたが、前向きというか、すごくポジティブ思考の方が多くて、統合したらこんないい事があるというような内容でした。

緑色で囲まれているのが今までも出ているメリットです。

乙中学校、黒川中学校、築地中学校にとって部活動の数は純粋に増えます。それから大勢と関わることができていい刺激がもらえるのではないかと。統合すれば一つの学校として経営方針などの目的も一つになるので、学校間にある格差はなくなる。それから4地区で、今伝統という話もありましたが、4地区の人材

バンクが一ヶ所に集まるので、それを活用すればすごいことができるのではないかと、そういう可能性もあるということです。

デメリットというか、懸念されることですが、設置場所です。どこから行っても遠い、どこに建てても遠いので、当然バス通学になると思いますが、出来るだけ皆が同じ距離、等距離になるような場所を選定してもらえるとありがたいということです。

それから教員数が減るわけです。「減れば教育の質が落ちるのですか」とすごく痛い所を突かれました。そんな時に地域の力ってこれが役に立つのではないかと、すごくポジティブなご意見が出されました。教員は勉強を教える、授業をする。地域がそれに代わることは出来ないかも知れないけど、地域の力で教員の不足を補うことができるのではないかと。さきほどの人材バンクにも関わってきますが、それでもやはり一人一人に目が行き届きにくくなるのです。

それから通学バスを出すにしても生徒の生活時間に合わせてバスが出せるのか。これから各地区12月からバス通学になりますが、部活動の無い人用、部活動をやってから帰る人用の2本バスを出してもらっている。それで対応ができるのだろうかというようなことも出ました。

それから教員数が減る話の中で養護教諭が1人になります。600人規模でも養護教諭1人です。だから、その辺りは子どもに寄り添える、例えばスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといったような人を常駐できるようなシステム、これは市の行政に頑張っていただきたいと思いますが、そのようなシステムがあったらいいじゃないかなということです。

それでこれは絶対いいぞというのは、生徒が広域で活動できるようになります。確かに地域ごとの伝統はとても大事ですが、担い手がどこも不足している。祭りなんて存続できなくなっている。それを広域の子どもたちが入り乱れてやる事が出来るようになります。そういう利点があるのではないかと。特色あるそれぞれの地域の活動を他の地域の生徒も一緒になって支えていくことができる。そういう利点、活性化するチャンスはあるのではないかと。ということでした。

3校統合も考えてみましたが、同じくらいの規模の学校が2つになります。そうすると学校間で切磋琢磨できるのではないかと。というチャンスも出て来ました。中条中学校バーサス3校統合中学校みたいな対抗戦のようなこともできるようになるのではないかと。という話も出ました。以上です。

○ 議長

ありがとうございました。それでは続いて第3グループをお願いします。

○ 指導主事

第3グループは基本的に4校統合した場合ということで考えていきました。

通学、部活動、交流活動、まず通学について、バスの常時運行は当然必要になるが、時間はどれくらいかかりますかということで、とりあえず想定として30分、そう考えた時に7時半に家を出ることになるのではないかと、8時に学校に到着するなら、黒川地区の子は自転車通学よりも余裕ができる。通学距離は非常に遠くなりますが、バスのおかげで自宅からの出発時間が遅くできる。ただし、それもバスの台数によるのではないかと。2回まわすと言われたら30分の30分で7時に出なければならないのではないかと。バスの台数、それから予算、ここが問題になってくるところです。

次に要望というか理想形なのですが、「今までよりも早い時刻はちょっと困る」というところです。それからワゴン車など「のれんす号」的なもの、これらを使っているいろいろ寄り道していくのではなく、ダイレクトに集落直行みたいにできるといいなと思っています。これは朝の想定です。帰りの想定になると部活動が絡むだろうというところで、部活動、今言ったように30分と考えると例えば18時に出て18時30分に家に着く。その時に一番いいのは親の送迎が無くなることです。今現在黒川中学校、やはり色々状況が重なって部活動の終わる時間が変わっていたりとかいろいろバラバラになったりするので、親の送迎が必要であるというところでそれは逆に無くなるのではないかと。ただ下校時刻、先ほど話がありました、部活動をする人としらない人、その真ん中辺に帰ろうとするような人はいないのか、生徒会で何かやってたという人がいた時に、「勉強して待っていなよ」ということになるかなということで、下校時刻への対応を考えていかなければならない。部活動も延長できなくなるということで、大会が近づいてくれば部活動の終了時間が6時半でも7時でもOKというようなところは無くなるであろう。それを良しとしない空気があれば辛くなりますねということで、部活動の過熱を防ぐというようなところ、大事なということになりました。

最後、交流の部分ですが、学校間の交流は必要なくなるとしても、地域との交流が薄くなっては困る。例えばPTAや学校が遠い存在になっては困るなというところです。地域からのリクエストは逆に増えてくるのではないかと。先ほど2グループが説明したように担い手が増える訳ですので、うちのこれに来てくれと、一緒にやろうという声が出れば大いなるムーブメントが起きるのではないかと期待はもちろんあります。そのためにもコミュニティ・スクールやPTAなどの組織が大事なのではないかと。今現在の人数を統合した学校で同じに、例えばコミュニティ・スクールで15人委員が4校にいるとしたら、1校にしたことでそれがまた15人になってしまうと、例えば黒川地区だとそれぞれの地区に1人ずつしかいないのではないかとすると、いろいろムーブメントが起こしにくくなるので、これもリクエストです。本当にその地区に10人ずつくらい、

各中学校に10人ずつくらいの委員さんがいて、それでそれぞれでやることもあれば、全体でやることもあるというようなどころができるといいのではないかと。学校のエネルギーを地域に振り分けるような感じにやれるといいなということになりました。

あと3校統合は立地が難しいのではないかと。中条中学校の横にもう1校建てればいいんじゃないかという話になりましたし、統合するなら4校統合がいいのではないかというのがこのグループの意見です。立地としては「ふれすぽ胎内」の近くで建ててくれないかなと。距離的なものもありますし、いろいろな施設が集合していますので、部活動の移動等も便利だと。そこに図書館も建つといいですねという話をしていました。以上です。

○ 議長

ありがとうございました。3グループの中でいろんな視点も出てきたということで、今後の総括の中で貴重な話が出て来たなと感じています。ありがとうございました。

それではここで学識経験者の委員から、グループ協議を踏まえ、ご意見を頂戴したいと思います。

○ 学識経験者委員

いよいよこの委員会も大詰めに入ってきているなと思いました。そして何回か会を重ねるごとに皆さんの理解も深まり、胎内市への愛というかそういうのがにじみ出るような積極的な意見が出てきていいなと思いました。

私の方からは宿題ももらっていますので、4点ほど。

まず3校か4校かという話になりまして、最大の問題は教員数が減ります。その教育力が落ちるかどうかという不安がまずあって、私が思うにそれは大丈夫ですね。一つは数が減ったとしても国の基準がありまして、その適正な数に対しての教員は配置されるという前提になりますので、それ自体による効果が目に見えて減って行くということはない。もしそうなら、よその学校全部減ってしまう訳で。ただ不安はあります。例えば、養護教員が減るという問題とか、きめ細かな目の届いていた対応が本当に続くのかというそういう問題がありまして、それに対しては皆さんの中の全ての人が思うように「いや大丈夫だ地域が助ける」という、こういう委員会が作られた一つの効果というのかな、ここにいる皆さんは少なくとも学校がどのような形になるのであれ、地域がちゃんと支えますよ、というそういう心意気をととも感じられていて、さきほどのグループ発表の中にあつたように、減った分は地域が補うという、そういうのがひしひしと感じられ、だからこの教育力の問題は結構いいのかなって、どういう形になるに

しろ、地域がしっかりと支えていくという、そういうのを何か私は感じました。大丈夫だと思います。

もう一つの問題は教育長の話にありましたように、ふるさとを思うというそういう心をどう育むかという点で、これはアンケートの子どもの答えにもとてもよく出ていて、ふるさと愛は皆さんもそうですが子どもにもとても強いですね。これはアンケートを取った大きな成果だと思います。子どもたちの中には、それぞれのその地域の良さを大事にしたいという熱いものが流れていると確信できたアンケートでした。これもこれまでの皆さんの熱い思いがつくったのでしょう。そういう地域への思いが統合した場合、4校統合にしろ3校統合にしろ、今ある学校から統合になった場合にふるさとのよさ、伝統、そういう事への子どもたちが学んだり体験したりするという部分がどうなるかという問題があります。今日は目からうろこでしたが、それはあるかも知れないが、むしろ広域になって乙地区の文化に築地の子どもが触れるとか、それも面白い、そのような残り方があるなど思いました。今日、皆さんから学びました。だからここもクリアできそうだなと思って、文化を大事したい、伝統を大事にしたいという子どもの思いをぜひ大事にしながら、今後広域による地域の文化への関わり方みたいな課題が見えたかなと思いました。

次は、自己有用感、自己肯定感について適正規模で考えた場合に、どのように考えるかという宿題をもらっていたのですよ。

この自己肯定感はもともと子どもが健全な成長をする上でとても重要視されてきておりました。それが平成に入った辺りで非常にクローズアップされました。2つ理由があります。

1つは生徒指導に色々な問題が湧き出て、いじめを中心として出た時に、本当に自己肯定感、自己有用感が低いのです。そういう低い子がいじめを起こす、あるいは暴力行為に及ぶ、非行の問題、非常に自己肯定感が低い。そういうことがクローズアップされて大きな課題になりました。

もう1つは、国際比較です。日本の子ども、若者、特に高校生を中心にして非常に衝撃的な結果がドーンと出てきて、自分には良い所があると回答した高校生が、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスは80%、90%行くのですよ。日本は70%行かなかったのです。自分はだめな人間だと思うというのが圧倒的に多い。40代になったら幸せになれるかという、全然日本の若者は幸せ感が無いのです。今の現状に自分に満足できず将来にも夢を持ってないというそういう若者がものすごく多くて、これが問題になったのですね。だから多くの学校が平成の真ん中辺りからか学校の教育課題として、自分には色々なことができる、そういう力があるから、自分は生きている価値があるという自己有用感の育成。さらに広い概念として、自分には価値があるというふうに、自己肯定感の育成を各学校み

んな頑張ったのです。国際比較のほかに学力テストがあって、そこに先ほどの調査の意識調査があって、今のこれがそこに出てくるのです。各学校それを注目するようになりまして、上がってきました。

胎内市の子どももいいですね。全国から見ても。これは、先生方の努力以外何物でもない。でも外国は90%、80%行くのです。私が調べたところ韓国が70何%で韓国並みかな、なんてちょっと思ったりしたのですが、まあそういうふうによくなくなった。私の宿題はこれを統合、あるいは規模を考える時にどういうふうにするかということにつなげると、自己肯定感を広げるには3つアプローチがあります。

1つは仕事を持って、役割を持って、それを果たすことで周りから承認されればいいのです。「あんたのおかげでこういう事が出来た」という体験がまず1つあります。

もう一つは、特に今言われているのは縦割り、異学年の交流において先輩、後輩という関係、先輩として何かをやってあげて「ありがとう」と言われることによる自己有用感、肯定感です。だからそういう交流をどう進めるかはここにも関わってきます。

3つ目が地域との交流です。地域に入って行って地域の皆さんの中のリアクションで「ありがとう」と感謝されて自己有用感を高める。これを学校規模で考えた場合、どの規模がいいというのはなかなか言えない。ただし質が違って、役割でいくと現状の学校規模で行った場合は、人数が固定されていてリーダーが決まっていて同じ子どもが同じふるまいをすることが多くなるために、人間関係が固定されて、なかなか自己有用感が高まりにくいと言われていています。それでは統合した場合は、新しい集団の中に入る訳で、これは先生方の工夫によっていいかもしれない。切磋琢磨が始まったり、さまざまな役割を持つということで統合した場合いいかもしれない。でも、それは先生方が工夫しないと意味が無いです。地域との交流、これは先ほど出たように小さい所は小さいなりに、統合されれば統合されたなりに、地域と関わるということで、自己有用感はいくらでもできそうです。つまり結論は自己有用感、自己肯定感は工夫によってどこでも必要になって、どこでも可能だということが言えるのです。自己有用感はキーワードです。本当にキーワードだと思います。今はいじめの問題の解決にこれはキーワードになっています。

もう1つ最近クローズアップされたのは自殺です。自殺の問題が日本の若者は世界的に比較すると、ものすごく多い。あまりに自殺が多すぎるぐらいに多い。自己肯定感も大事にするというのが本当に大事だと思います。

最後ですが、統合する場合、3校であれ4校であれ、統合された学校をどんな学校にするのか、もう1回委員会の設立が必要になります。新しい学校をつくる

ための、設立のための協議会、やはりこういう会が必要ですよね。今度できる学校はこういうふうにしようと、そこで今日出てきたような様々なことが改めて本気に課題になる。この委員会は今日でいよいよ大詰めを迎えてきましたが、委員会としての方針を出すこととなります。そしてそれを地域で聞くような会があるでしょうか。現場の先生方と議論する時あるでしょうか。いずれにしても収束して1つになると思います。なった段階から、もし統合するとした場合には、新しく生まれる学校をどうつくるかという委員会が必要になります。

そしてもう一つ、新しい学校は非常に無から有をつくることになるので、先生方には大変な負担になりますが、子どもにも負担になりますが、無から有をつくる創造の喜びが、新しいものを自分たちでつくるという歴史をつくる、第1ページをつくるという、それが子どもたちに課せられ、先生に課せられ、その負担は大きいでしょうけど、夢がある。今日は議論になっていませんでしたが、もし統合になった場合はその夢を、ビジョンを描いて、そして先生と生徒が一緒になってつくって行くという物凄い新しい時代に入ることになる訳です。その前の段階で地域の人たちが願いを寄せ合って、今度の学校はこんなになってほしいということを今日、今回は規模をどうするかですけれど、決まれば私が思うに、ぜひ皆さんその新しい学校づくりにもう一回委員をやって欲しいと願います。

以上です。

○ 議長

ありがとうございました。それでは続いてよろしく願います。

○ 学識経験者委員

私の方は割と大きくいくと4点くらいでしょうか。

今の話とも重なる所があるし、これまでお話ししたこととも重複することがありますが、ここでの議論というのが、1つはキーワードで言うと「大人から子どもたちへのメッセージ」だと思います。何かというと、大人が子どもの将来と未来を、一生懸命考えている。そのための意思決定しようとしている。私たちの世代が、今度新しい世代に対してどんな未来を保障しようとしているのか、そういうことをいま議論しているのだと思います。そのことが答申の中にそういう熱い未来への創造性など、あるいは熱い期待とか、そういうのが入ってくると思います。

私は社会科教育を専門にしているとこれまでもお話ししましたが、小学校の社会科でも未来をどう構想するか、自分たちがどう関わればいいのかという選択判断する力を養うところです。子どもも学校の授業の中でカリキュラムとして行われるようになってきている。これまでのことをただ学ぶということでは

なく、もちろん過去を大事にするという事はありますが、今いる私たちは未来をどういうふうに考えたいのか。そのために私たちは今をどう生きようとするのか、そういうことを学校教育の中で子どもたちは考え始めています。そういう時代の中で私たち大人世代が子どもたちのために何をどう未来を開いて行けるのか、そういうことがこの場で議論されていると思います。私たち世代ができることは、今の限られたいろんな条件の中で出来ることだろうと思います。

そういう中で、世代間でバトンタッチしていけば、次に子どもたちは自分たちが大きくなった時に次の世代に向けて、どういう学校なり地域なりを考えればいいのかということを受け継いでいくのではないかと、そういう教育の継承といいますか、そういう機能がある。そういう意味でこういう議論の場は有意義だと私自身も思いました。これが1点目です。

そして2つ目、統合するか、それとも従来そのままでもいいか、これはメリット、デメリット両方あるというか、そしてポジティブに考えていくということもあると思います。同じようなことで統合した時に地域がもっと協力するのではないかと話もありました。逆に今度は従来型で子どもたちが減っていく、そういう現実の中で協力ができないかという、さきほど祭りの話ありましたが、私も新潟市内の小学校のある地域で伝統文化を学習する中で、祭りを調べていくと、ある地域の担ぎ手が少なくなってきている。そうしたらどうしているかという、他の地域の祭りに行って担いだ人たちが応援に来ると、今度はまたその祭りに自分たちも応援に行くというか、そういう地域を超えた交流によって自分たちの文化を守って行こうというのが結構一般的になってきているだろうと思います。だからそのように考えていけば、どういう状況になった時にどういう関わり方ができるかというのはたぶんメリット、デメリット含めて同じ可能性というのはあり得るのではないかと、ただそこで知恵を出し合っていくというかそういうことが大事になってくるのかなと思いました。

そして3つ目ですが、社会性の問題とか、自己肯定感といいますか、そういうものはいろんな形で育まれるという話がありました。統合するにしてもしないにしても小規模で学校間で交流をしていくという形もあるでしょうし、その場合でもまた学校を超えた、さきほどのように一堂に集まって、時にはメリハリをつけて、お互いの学校の良さとかそういう所をお互いが交流をして、認め合っていくとかということもあると思います。

そしてもう一つは例えば遠隔でやるということもあり得ると思います。今は地域を超えて世界と繋がっている。他の地域と繋がっていくということがあり得ると思います。遠隔について、私は直接関わっていないのですが、関わっている人から資料をいただきましたが、新潟県の高校において、県の高等学校教育課が推進しているのですが、「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」、Sado

(佐渡)とAga(阿賀)とSuikou(新潟翠江)のネットワーク7校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓くというそういう形で今年度から授業交流を遠隔で始めている。その中で生徒の未来、自分の未来をどう考えるかということなのです。学校のあり方が学校の未来をどう考えるか。もう一つは地域の未来、地域人材の未来をどう考えるかとそういうものを含んで、ネットワークでの授業交流を始めているらしいです。私はここぐらいまでしか情報提供できないので、これについて事務局で必要があれば問い合わせさせていただければと思います。いずれもそこに参加している高校は、生徒数が40名とか60名台とか小規模の学校も参加している訳です。教員も少ないというかそこでどうやって教育の質を高めていくかとか、そういう苦勞をしていっている。そんなことは知恵を出せばこれからはどんどんできるのかなと思いました。

それで最後ですが4つ目、先ほどの自己肯定感に関わりますが、この土日に社会科の学会が福島大学であり、これはインターネットで遠隔で参加してきたのです。そのシンポジウムで福島の震災後に出来た「福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校」という新しく中高の学校なのですが、教育ビジョンは何かというと、“未来の「変革者」たち”、こんな子どもたちを育てるのだという、だから未来創造型教育ということを銘打って、学校を建てていくという。

胎内市では統合するかどうするかメリット、デメリットを考えていった上で、胎内市として、どんな子どもたちをこれから育てていきたいのかという中で、多様性を持ちながら力を育んでいくということが大事になってくると思いました。

今日も3つのグループのワークを拝見しているといっぱい刺激をいただきました。本当にありがとうございました。以上です。

○ 議 長

ありがとうございました。

それでは、以上で本日の協議は終了しました。委員の皆さま、何かございますか。

<なし>

○ 議 長

無いようですので、次にその他に移ります。事務局お願いします。

○ 学校教育課長

今回の会議の予定ですが、年明けの1月に開催したいと考えています。追って皆様の方に開催通知を書面で送りさせていただきます。よろしくお願いします。

次回が第7回目ということで、これまでの協議を踏まえて答申書案をお示しして、それについて皆様の意見等を伺う機会ということになりますので、よろしく申し上げます。以上です。

○ 議 長

ありがとうございます。他、よろしいですか。

<なし>

○ 議 長

事務局、連絡ありがとうございます。それでは他に無いようですので、閉会の挨拶を副委員長からお願い致します。

○ 副委員長

お疲れ様でした。本日も大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございました。

先ほど自己有用感、自己肯定感の大切さというお話を先生方から聞かせていただきました。残念ながらご承知のとおり全国的には子どもが巻き込まれるという痛ましい事案がいくつか最近も発生しております。この間もある所でお話しの時に今の子どもたちというのはバーチャルの世界で生きているので、なかなかその仮想現実から抜け出せないと、現実の痛みと仮想の世界の見極めが難しくなっているのではないかという話を聞かせていただきました。正にそこをどうしていくのか、またそこが大事なのかなと考えます。

胎内市としても教育長始め教育委員会の方が一生懸命頑張ってください、学校支援ボランティア始めコミュニティ・スクールと段階を踏んで地域の力を得ながらという形を今つくっていただいておりますので、それをいかに活用していくかというのが大事なのかなと改めて思いました。

今こそ地域の力、また家庭力の向上という底力を見せる場面だろうと考えております。本日も集まりの皆様の力を今後ともお借りしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今回は、先ほど事務局から説明がありましたとおり、今までいただいたお話しを答申の素案としてお披露目することになると思います。

これから寒くなります。外はご覧のとおり真っ黒で日が非常に短くなっています。お帰りの際は気を付けていただいて、また今年はインフルエンザの心配もありますので風邪にも気をつけていただき、また来年元気な姿でお集まりいただきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

○ 議 長

どうもありがとうございました。お二人の先生方、工夫によって、いかようにでも行けるだろう。そして知恵を出し合うことによって課題は解決できる、そんな思いをいただきました。そのことに自信を持って私たちは今後も歩んでいきたい、そんなふうに思います。地域とともにそして地域を超えた学校づくり、そんなところを目指して行くのかなと考えております。

本日は本当にありがとうございました。以上で検討委員会を終了します。足元暗いですので気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。